

## 新型コロナウイルスの検査を知ろう！

### -PCR検査・抗原検査・抗体検査-

国内でもまだまだ発生が続く新型コロナウイルス感染症。ニュースでは、毎日患者数に合わせて「PCR検査」という言葉を耳にしますね。また、「抗原検査」「抗体検査」なども聞き、同じ新型コロナウイルスの検査でもどう違うのかわからないと感じている方も多いのではないのでしょうか。もし感染した場合、どの検査を受ければいいのか不安になってしまいますね。万が一に備え、新型コロナウイルスの検査について知っておきましょう。

**新型コロナウイルス感染症にかかっているか判断する検査は現在3つの方法があります。**

#### ①PCR検査

現在新型コロナウイルスに感染しているかどうかを調べる  
PCR検査はもっとも一般的に行われている新型コロナウイルスの検査



**検査方法** PCR検査は鼻やのどの奥からぬぐった液や痰などを検体として採取します。インフルエンザの迅速検査を想像してもらえるといいでしょう。鼻の奥へ綿棒を挿入してぬぐい、大人でも苦痛を伴う検査です。唾液を検体とする方法も可能となり、検査の苦痛が緩和され医療従事者への感染リスクも軽減されました。唾液に含まれるウイルスの量は鼻やのどの奥からぬぐった液に比べて少ないため、陽性であっても陰性とする可能性もあります。ウイルスの量や測定できる値などによって正確に結果がでないこともあります。検査には限界があると理解しておきましょう。

**検査費用** 医師が必要とし、指定する医療機関でPCR検査を受ける場合、検査費用はかかりません。初診料など自己負担分のみの支払いです。

**デメリット** ・検査時間が長く、すぐに結果が判明しない。  
・鼻やのどをぬぐった液を採取して検査を行うため、医療従事者への感染リスクが高い

#### ②抗原検査

新型コロナウイルスに感染しているか調べる

PCR検査より感度が劣るため、抗原検査で陰性診断を受けてもあらためてPCR検査を受ける必要がありました。しかし、発症後2～9日目に受けた抗原検査が陰性であれば、追加のPCR検査を受けることなく陰性と確定することができるようになりました。

**検査方法** PCR検査と同じように鼻やのどの奥をぬぐった液や唾液を検体とし、専用キットを使って検査を行います。また、特定の試薬を使うことで、唾液を検体とした方法も公的保険適用対象となりました。

**検査費用** PCR検査と同じく、医師が必要とし、指定する医療機関などで検査を受ける場合、検査費用はかかりません。初診料など自己負担分のみの支払い。

**メリット** 迅速性。特別な検査機器や試薬がいらないため、その場ですぐに結果が判明します。  
**デメリット** PCR検査と比較して精度が落ちる

#### ③抗体検査

過去に感染したかどうか調べるができる

新型コロナウイルスに感染するとIgG抗体などがつくられ、それらがあるかどうかを検査し、陽性の場合には現在感染中であるか、あるいは過去に感染した可能性があります。WHOでは診断を目的として抗体検査のみをおこなうことは推奨していません。蔓延状況の解析など疫学調査として活用できる可能性が期待されています。

**検査方法** 細い針で指先を指す、採血するなどして採取した血液を専用キットに垂らして検査を行います。検査結果は数分ほどで判明し、非常に手軽な方法です。

**検査費用** 抗体検査は自由診療で各クリニックによって異なります。およそ5000～10000円ほどが一般的。

**メリット** 少量の血液で検査をおこなえる  
**デメリット** 精度が低いものがあり、確定診断となりません。

医療従事者は、状況や必要に応じて最適な方法で検査を行い、結果を導きます。  
まずは予防の基本である手洗いや消毒、マスクの適切な着用などで、感染しないよう心がけることが大切です。